

IMF サーベイ

2012 年の見通し

2012 年のアジア：底堅いが、ユーロ低迷の影響で危険な状態に

IMF アジア太平洋局

2012 年 1 月 5 日



赤ちゃんに接吻する年老いた女性。IMF エコノミストは、中国はソーシャル・セーフティ・ネットの更なる拡大の支援が可能だろうと語っている（写真：Corbis/Reuters）

- ヨーロッパ経済が更に後退すれば、アジアにかなりの波及効果を及ぼす
- アジアは新たな景気後退に対応する能力がある
- 2012 年に東京で開催される国際通貨基金（IMF）・世界銀行の年次総会は、アジアとの緊密な関係を反映

アジア諸国からほど遠い地域で進展している経済の混乱は、2012 年のアジア経済の見通しを方向づけるかもしれない。ただし、世界の経済状況が悪化しても一中でも注目すべきはユーロ圏の問題を抱えた国々であるが—アジアの政策当局は依然として積極的に対応する余地がある、と IMF のエコノミストは述べている。

世界的に不確実性が広まっているにもかかわらず、アジアはこれまでのところ非常に底堅いことが判明している。内需は好調、失業率は低く、工場はほぼフル操業で稼働している。与信の伸びは、急ピッチだった 2011 年初めよりは鈍化しているものの、大半の国々で今のところ堅調さを維持している。

日本は 2011 年 3 月に発生した東日本大震災による地震や津波の影響から回復しつつあり、タイでは壊滅的な大洪水の後、復興活動が進行中である。

困難な年間見通し

一方、IMF アジア太平洋局のエコノミストは、アジアは貿易に大きく依存しており、2012 年は厳しい年になりそうであると示唆している。アジアは世界でも有数の貿易依存度が高い地域であり、金属や米といった商品から、高性能エレクトロニクス製品や自動車まであらゆるものを輸出している。従って、外需水準はアジア地域の景気動向を決定づけるうえで極めて重要となる。

アジア地域の成長は需要の減速により既に鈍化し始めているものの、マクロ経済政策の引き締めスタンスといった国内要因も、特にインドや中国で重要な役割を果たしてきた。IMF エコノミストは、今後アジアからの輸出需要はかなり低迷すると予測している。

一部の地域で最近生じている金融市場におけるストレスは、金融経路の波及もアジアにとってリスク要因となっていることを示唆している。

ユーロ圏で生じている経済の混乱により、世界的にリスクを回避する動きが見られ、それに対応してアジアの株式市場が急落している。アジア通貨は下落しており、一部の国ではドルによる資金調達圧力が高まっている。また、アジアの一部の銀行では保険コストの水準が上昇しているが、この水準はこれまでリーマン・ブラザーズ破産直後にしか見られなかった。

ユーロ圏でさらに金融市場の混乱が続けば、資金調達力が弱まり、アジアに重大な影響をもたらす可能性がある。ユーロ圏の銀行は、多数のアジア系の銀行にとって重要な資金調達源であり、貿易上の信用を提供するうえで極めて重要な役割を果たしている。

悪化する見通しへの対応

下振れリスクが現実となる場合でも、アジアの政策当局は積極的に対応する余地がある。アジア地域にはまだ十分な政策調整の余地があるが、一部の国では世界的な金融危機の勃発時よりは少なくなっている。

一部の国では、既に金融緩和政策を開始している。外需が落ち込んでも、特に低水準の公的債務により対策を実施する余地があれば、財政再建はおおむね遅れるかもしれない。

こうした従来の対策を別にしても、アジアの国々は 2008 年の世界的な経済危機を受けて多くの国々が実施したように、他の政策手段を利用することが可能である。

たとえば、重要な資金の流れを維持するには、特定の金融機関に対して流動性の保証が必要となる場合がある。中小企業向けに貿易上の信用と貸付を推進するプログラムを考案する。特定の通貨不足に対処するため、中央銀行のスワップライン及び外貨準備プール制度をさらに強化し、稼働させる、などである。

また、アジア地域では巨額の外貨準備高が累積されているが、経済活動への影響を平準化するために、経済危機のときは取り崩される。

中期的な見通し

アジアは、世界でも有数のダイナミックな国々の本拠地であり続けるが、この地域の過去の優れた実績を持続し、外部の衝撃に対する脆弱性を軽減するには、いくつかの改革が必要である。課題は国ごとに大きく異なる。

中国は、成長のリバランスを持続させるには、個人消費に向けた投資や輸出を避け、金融制度の改革と自由化、個人消費への金融支援、ソーシャル・セーフティ・ネットの更なる拡大などの措置が必要である。

日本の主要課題は、公的債務を削減し、潜在成長率を押し上げることにある。こうした課題は、就業率の上昇、中小企業の活動の活性化、及びサービスセクターの規制緩和により促進される。

韓国の目標は、サービスセクターの生産性向上である。また、東南アジア諸国連合（ASEAN）の多数の加盟国は、潜在成長率を高めるためにインフラストラクチャへの投資に重点を置くべきである。

さらに包括的に成長するには、構造改革が必要である。過去 20 年にわたり、アジアの大半の国では貧困の減少において著しい進歩が見られるものの、所得格差は拡大している。

アジア及び IMF: 東京での年度総会への道筋

2012 年、IMF は世界銀行と共に東京で年次総会を開催する。東京での開催は、世界経済安定の防波堤としてのアジアの重要な役割、及びアジアと IMF との建設的な協力関係の高まりを反映するものである。

アジアと IMF の結びつきは、アジアの IMF での発言力を強めるガバナンス改革、及びアジア出身の IMF 幹部の選出を通じて強化されている。

最近、シンガポールの財務大臣ターマン・シャンムガラトナム氏が国際通貨金融委員会（IMFC）議長に、中国の朱民氏が IMF の副専務理事に任命された。